非核・いしかわ

2023年7月20日　月刊第300号

〒920-0848 金沢市京町28-8　石川民医連労働組合気付
非核の政府を求める石川の会
TEL 076-251-0014　FAX 076-251-3930
http://hikakuishikawa.com/

非核五項目
① 全人類共通の課題として核戦争防止、核兵器廃絶の実現を求める
② 国是とされる非核三原則（つくらず、もたず、もちこませず）を厳守する
③ 日本の核戦場化へのすべての措置を阻止する
④ 国家補償による被爆者援護法を制定する
⑤ 原水爆禁止世界大会のこれまでの合意にもとづいて国際連帯を強化する

核兵器禁止条約の署名は92か国、批准は68か国（7月15日現在）

1面 『会員エッセー＆コラム』（第3集）発行に寄せて　中村昭一
2面 石川県内の行進を終えて　山内金久
県内通し行進に初めて参加して思ったこと　村木悦子
3面 核兵器禁止条約に参加を！ 外務省審議官に署名提出　新井田義弘
4面 戦争を回避せよー「新しい戦前」にならないために　猿田佐世
6面 「声をあげる高校生たち」試写会の感想
6面 海部公子さんのこと　佐藤公男
7面 ＜独標＞再会　大川陽一
編集室より
8面 戦争遺跡と平和の記念碑　佐藤公男
絵手紙コーナー　家　正子

会報「非核・いしかわ」第三〇〇号記念
『会員エッセー＆コラム』（第三集）発行に寄せて

編集長　中村昭一

このたび、会報「非核・いしかわ」第三〇〇号を記念して、『会員エッセー＆コラム』（第三集）が発行されることになりました。二〇一九年六月（第二五一号）から二〇二三年七月（第三〇〇号）までの会報に掲載された〝会員リレーエッセー〟計一〇四編、〝コラム『花鳥風月』〟計五〇編、当会の井上英夫・五十嵐正博両代表世話人の論稿を一七編が収録されています。

言うまでもなく、書くことは言葉と文字を持つ人間だけの表現行為です。そしてそれは、何らかの表現欲求を満たして自己救済に至る場合もあれば、逆に、生みの苦しみや心をさらけ出すことなどによる、自分自身に「傷」をつける行為になる場合もあります。

しかし人間は、何も表現せずに前へ進むことはできません。書くために汗を流し、物事の本質に少しでも近づき、それによって自らを救う存在、といえるのではないでしょうか。『文は人なり』という言葉がありますが、まさにその通りで、それによって人は自らを表現し、自らを省み、自らを磨きつづける存在、といえるのではないでしょうか。

毎月、会報作成に従事して感ずることは、編集委員の一方的な押し付けばかりではなく、会員各位と響き合う会報にしたいという思いです。輪番であれエッセーの掲載が、知己に関わらず、心かよう交流の契機となれば、それに勝る喜びはありません。

完成したこの冊子は、会員各位の汗の結晶であり、知人や家族への配布で、その思いの一端を周りに伝え得るものです。どうか有用にご利用いただき、併せて〝非核をめざすたたかい〟を引き続き共にしていただきますようお願いして、発行にあたっての言葉とさせていただきます。

花鳥風月

『はだしのゲン』

今、読み継いで金沢のNPO全国の図書館に寄贈」「連載から五〇年　所蔵希望を調査」と北陸中日新聞六月一八日朝刊一面に都道府県立図書館（五〇館）への『はだしのゲン』所蔵希望アンケートが大きく報道された。翌日の中日新聞と中日新聞Webニュースにも紹介された▼この報道には、「今朝の朝刊、トップ記事カッコイイですね。事態は深刻だけれど、それに立ち向かうのがカッコイイ！」「ただ今終活中、『はだしのゲン』を送るので活用してほしい」「ゲン寄贈募金を送りたいので振込先を教えてほしい」など、一〇数人の方から共感のメールが届いた▼NPO法人はだしのゲンをひろめる会が、アンケートの集計結果（三五館）とこの新聞記事を調査依頼した全ての図書館に送付したところ、回答は四二館（回答率八四％）まで増えた。特に愛知県図書館からは「中日新聞で大きく報道されたことにより、県民からの問合せや貸出しが増える可能性があり、先日〝寄贈不要〟と回答したが、〝寄贈希望〟に訂正したい」との連絡も▼広島市教育委員会の学校教材からの「ゲン」削除に抗して、全国の図書館から多数の〝寄贈希望〟が寄せられたことに深謝する。（か）

原水爆禁止国民平和大行進
富山～広島コース

石川県内の行進を終えて

通し行進者　山内金久

山内金久さん

石川県平和行進実行委員会のみなさん、一四日間の行進ありがとうございました。お陰様で楽しく通し行進者の役目を果たせたのではないかと思っております。

かつてない内外情勢の中での平和行進です。ロシアのウクライナ侵略が一年五カ月も続き、プーチン大統領の核兵器使用の威嚇が続いています。そして、G七広島サミットでは、唯一の戦争被爆国・日本の被爆地広島で開催されたにもかかわらず、破綻した核抑止の立場に依然と立ち、核兵器禁止条約については一言も言及がありませんでした。

訪問した自治体でのあいさつでは総じて政府の意向に沿うものでした。それだけに被爆者の願い、被爆国国民、そして世界の反核平和の国際世論に真逆の広島ビジョンに対置する私たちの原水爆禁止国民平和大行進は、一層の奮闘が求められています。

そうした中で県内一六自治体から、世界大会への連帯のペナントや協賛金、激励をいただきました。その上、通し行進コースに能登半島を初めて加えられ、そのコースを行進できたことは私にとっても意義深いと思っています。

特に、県原水協事務局長の新井田義弘さんが出発式で述べられた、珠洲原発計画断念に追い込んだ二八年間のたたかいと、それから二〇年経ったこの五月の珠洲大地震で「原発止めておいてよかったね」と当時原発賛成した方からも挨拶をいただいたというお話には感動しました。今取り組んでいる核兵器廃絶を求める平和行進も後世の人たちからその意義について語られるだろうというお話は、とても説得力があり、勇気をいただきました。

毎月発行されている会報「非核・いしかわ」や石川反核医師の会の「核兵器禁止条約発効記念誌」、NPO法人はだしのゲンをひろめる会の取り組みなど多彩でユニークな活動にもたくさん学びました。

県内通し行進者のお揃いの「はだしのゲン」Tシャツも素敵だったし、神田順一さんの連日の平和行進・写真特集にも励まされました。県内通し行進者のみなさんにも励まされました。ありがとうございました。今度は八月に広島、長崎でお会いしましょう。

県内通し行進に初めて参加して思ったこと

村木悦子

挨拶する村木悦子さん

平和行進は全国に一一コースあります。石川県は富山―広島コースで富山から六月初めに出発します。日程は一〇日津幡町倶利伽羅で行進幕を引き継ぎ、二三日福井県吉崎で渡します。

通し行進者は東京板橋から山内金久さん、北陸三県を泉行眞住職、県内は六回目の岩木治美さん、初めての村木です。その外、リーダーの新井田義弘さんと常連参加者などです。

行進二日目、珠洲市では五月五日の大きな地震で屋根にブルーシートや玄関に「危険」「注意」等の検査証が貼ってある家が何軒もありました。輪島の宿泊先では部屋の窓から高洲山が見え、頂上では自衛隊のアンテナや建物が建っているのが見えました。もし朝鮮半島に有事があれば真っ先に攻撃されるだろうと何かで読んだことを思い出しました。平和なのに何か寒くなる感じがしました。

訪問先の各庁舎前の出発式や到着式で新井田さんが挨拶したことは、「珠洲に原発がなくてよかった」、「岸田総理はG七広島サミットで戦争があることを前提に軍備拡大ありきで核抑止で戦争を止めることができると考えており、戦争反対、軍縮に向かってほしいという願いを踏みにじっている」等でした。

一五日、森本駅から東金沢駅交差点を経て城北クリニック玄関前で開かれた到着式では私も挨拶しました。

「ここに集まっている皆様は日常仕事に家庭に忙しく働かれていることと思っています。でもちょっと立ち止まってみませんか？平和があってこその仕事や家庭が回っていくのですよね。

今、その平和が岸田総理によって壊される可能性がある状況となっています。G七サミットが広島で行われたのですが、総理はうまくいったと自画自讃していますが、国民の大部分の人はがっかりしていると思います。G七サ

ミットは戦争があるからと軍備拡大ありきで話し合われました。また、核で戦争を止めることができると考える動きになっています。戦争反対、軍縮に向かってほしい願いが踏みにじられようとしています。これを黙って見過ごすわけにはいきません。平和の願いが広がるように、平和がずっと続くように態度で表そうではありませんか。平和行進を見かけたら一歩でも二歩でも一緒に歩こうではありませんか。

最後に私のわがままな願いを聞き入れてくださった職場の上司、同僚に厚くお礼をさせてください。忙しい中、平和行進に参加させていただきありがとうございました。」

最終日、二三日は加賀市役所から行進を開始し、福井県境の吉崎で行進幕を手渡ししました。行進期間中の天気は二一日が雨、この日だけ傘を広げました。曇り空が多かったです。

行進期間中に県内自治体から寄せられた核禁条約署名は約二千筆、ペナントは九〇本、ペットボトル募金（被爆者救援連帯募金）は一五万円程ありました。来年の平和行進もよろしく。

◇　◇　◇

懸垂幕「平和都市宣言の町」を掲げた川北町役場では「はだしのゲン」Tシャツの参加者が勢ぞろい

核兵器禁止条約に参加を！
外務省審議官に署名提出
一三〇万四〇〇〇筆に

七月五日、原水爆禁止日本協議会は、「唯一の戦争被爆国・日本政府に核兵器禁止条約の署名・批准を求める署名」三四万三四八一筆を林美都子審議官（外務省・軍縮不拡散・科学部）に提出した。原水協の提出署名数は昨年四月の提出分と合わせて合計で一三〇万四〇一九筆となった。

提出にあたって原水協の高草木博代表理事は、「核兵器が『安全を保証する』とか『戦争を抑止する』との虚構は音を立てて崩れています。核兵器は絶対に使わせてはならず、その唯一の保証は核兵器を廃絶することです。日本は世界でただ一つ、国民が核の惨禍を体験し、被爆者がいまも心と体の傷に苦しめられている国です。その体験と国民の願い、そして戦争を放棄した日本国憲法に照らしても、『核の傘』への依存をやめ、核兵器の全面禁止・廃絶のために行動すべき国です。」と訴えた。

全国から集約された署名を外務省に提出

石川県からの提出数は七〇四四筆（昨年四月の提出分と合わせて一万八九六六筆）。新井田義弘県原水協事務局長は、提出にあたって、「石川県の珠洲市では地震の被害が甚大です。自然災害は止められませんが、核兵器の製造や使用は政治の力で止められます。核兵器禁止条約への日本政府の参加を強く求めます。」と述べて署名を手渡した。

二万筆突破！

政府への署名提出に向けて「核禁条約署名石川県連絡会」参加の諸団体に「六月中に県内の署名数二万筆突破を！」と呼びかけたのに対して、手渡しや郵送で次々と署名が届けられ、二万〇〇九六筆になりました。ご協力・ご奮闘にお礼を申し上げます。

外務省への署名提出時にアピールする新井田義弘さん㊨

平和行進に
一一自治体から二五〇九筆

六月一〇日～二三日に開催された石川県内平和行進では事前の協力要請に応えて一一自治体から二五〇九筆の署名が寄せられました。トップは加賀市の五一五筆でした。被爆者援護募金は一五自治体から一六万七四一〇円のペットボトル募金が寄せられました。ありがとうございました。

次の署名提出は第二回締約国会議前の一一月上旬と発表されました。

（石川県原水協事務局長　新井田義弘）

講演要旨

戦争をさせない石川の会　講演会

戦争を回避せよ―「新しい戦前」にならないために

新外交イニシアティブ代表・弁護士　猿田佐世

講演する猿田佐世さん

私は、米国からの圧力とは何かをワシントンで実際に見ていました。多くの情報が日本人によって歪められていました。例えば民主党政権誕生時に、今後の日米関係はどうなりますか、という質問に「悪くなる」ばかりの結果となるアンケートもありました。でもシール貼っているのは日本人なのです。米国規範に追随するというのは相当程度、日本人が好んで作ったものなのです。改憲についても、自分が変えたくて、米国にお願いして雰囲気をつくっているのです。米国からの〝拡声器効果〟なのです。これは〝自発的な対米従属〟そのものです。

◆一、安保三文書とは

（背景・内容・日米関係）

まず確認しておきたいことは、**①日本一国では、戦争になる理由がない、②日本が中国と戦争になるのは、米中紛争である台湾有事に巻き込まれたときのみ**、ということです。本来、日本には台湾を守る義務はないので、日本自らが関わるという選択肢を選ばない限り、日本が戦場になる可能性はありません。

北朝鮮と戦争になる可能性は極めて低いです。攻撃したら北朝鮮の金政権は崩壊します。ロシアはウクライナでかなり疲弊しているので、日本を攻撃することは不可能です。よって日本の安保政策の絶対命題は**「台湾有事を回避せよ」**となります。

安保三文書改訂（作年一二月）で政権は、**①「敵基地攻撃能力（反撃能力）」の保有**すなわち、米国製巡航ミサイル「トマホーク」等を大量購入予定して米軍と共同運用、**②防衛費の倍増**すなわち、二七年に対ＧＤＰ比二％にすることを決めました。①は、国際法違反の先制攻撃のおそれがあり、憲法・専守防衛からの逸脱そのもので、②は、財源が決まらないまま軍拡競争「安全保障のジレンマ」に突き進み、さらに地域は不安定化するだけです。抑止力は「信頼供与」がなければ機能せず、そのためには「外交」が不可欠です。

米軍と自衛隊の一体化の加速は、今年一月の日米安全保障協議委員会（日米「二＋二」）に表れています。南西諸島を含む地域における共同使用を拡大し、共同演習を増加し、敵基地攻撃能力の効果的な運用へと舵を切り、空港や港湾を使いやすくし、沖縄の海兵隊を「海兵沿岸連隊（ＭＬＲ）」に改編し、機動性を上げた小規模部隊で南西諸島防衛に資する、等を意味します。

同じく一月の日米首脳会談では、三文書改訂を歓迎し、安保能力強化「台湾海峡の平和と安定を維持することの重要性」を確認しあいました。

いま米国は同盟国頼りとなっています。力を落としている**米国の対中戦略は同盟国との連携**なのです。米「国家安全保障戦略」（昨年一〇月）の〝統合抑止〟は、同盟国に軍事力強化を促し、自国の抑止に組み込むことを目指すものです。これに日本は三文書改訂で即、応えたわけです。まさに対米従属です。

すなわち安保三文書改訂の意図は、国家安全保障戦略に書かれているとおり、「インド太平洋において日米の協力を具体的に深化させることが、米国のこの地域へのコミットメントを維持・強化する上でも死活的に重要」であって、抑止力を強化し、米国陣営を強化し、米国の補完をしつつ、**米国を巻き込むこと**にあるのです。

◆二、安保三文書の問題点

これはとても無責任な文書です。まず**①自分たちへの影響を全く語っていません。**防衛研究所報告書によると、中国のミサイル攻撃を完全に封じ込めるのは困難ですが、攻撃を受けながらも対艦攻撃などで足止めさせ、台湾や尖閣への上陸を防ぎ、米軍が世界中から駆け付けるまでの半年から一年の、時間を稼ぐというものです。中国は非常に精密な攻撃能力を持つので、被害は米軍・自衛隊使用の飛行場や港湾に限られ、民間人が巻き込まれることは殆どない、という無責任なものです。戦略国際問題研究所（ＣＳＩＳ）の台湾有事の机上演習（今年一月）にも民間人の被害について、ほぼ言及がありません。

さらに経済的被害についても何も語っていません。ドイツで「日本では中国に対する経済制裁についてどんな議論

をしているか？」と問われて驚きました。全貿易のうち日中貿易は既に約四分の一。有事となり自衛隊派兵となれば完全に断絶することになり、全国民の生活が根本的に破壊されるのは明白です。**国際法の順番は、派兵する前に経済制裁**なのです。派兵ありきの議論は全く非現実的です。勿論、経済制裁では日本が先に干上がってしまいます。

そして**②中国に軍事力にのみで対抗しようとするのは愚かです。**今回の防衛予算の倍増によって軍事支出が世界第三位になったとしても、中国の五分の二に過ぎません。既に中国のGDPは二二年比で日本の四倍です。中国の軍事費はこの二〇年間、GDPの一・七％程度。軍事力だけの対抗は愚の骨頂です。こう言うと「日本だけで対応するのでない」という方がおられますが、中国の台湾進攻時に米国が軍事介入するか、実のところ定かではありません。

非同盟国に幾度も介入してきた米国がウクライナ戦争に直接介入しないのは、ロシアが核兵器国・軍事大国だからであり、第三次世界大戦への呼び水になりかねないからです。中国も核兵器国・軍事大国です。ヨーロッパはもっと怪しくて、NATO諸国一四ヵ国調査では台湾有事の際、紛争終結のための外交三五％、対中経済制裁三二％、何もしない一二％、台湾への武器供与四％、台湾派兵二％（欧州諸国だけなら一％）という結果です。**米国が傍観し、日本だけが戦う**ということになりかねません。

◆三、ではどうするか（提言）

安全保障政策の目標は、戦禍から国民を守ること即ち、戦争回避でなければなりません。抑止力強化一辺倒の政策で、本当に戦争を防ぎ、国民を守ることができるのでしょうか。

軍事力による抑止は、相手の対抗策を招き、無限の軍拡競争をもたらすとともに、抑止が破綻すれば、増強した対抗手段によって、より破滅的な結果をもたらします。

戦争を確実に防ぐためには、「抑止」とともに、**相手が〝戦争してでも守るべき利益〟を脅かさないことによって、戦争の動機をなくす「安心供与」が不可欠です。**抑止の論理にのみ拘泥する発想からの転換が求められる所以です。

台湾有事を回避するためには、過度の対立姿勢を諫めるべく、**米国に対しては、**米軍の日本からの直接出撃が事前協議の対象であることを梃子として、必ずしも同意しないことを伝え、**台湾に対しては、**民間レベルの交流を維持しながら、過度な分離独立の姿勢を取らないように説得し、**中国に対しては、**台湾への武力行使は国際的な反発が中国を窮地に追い込むことを諭し、**日本は**台湾の一方的な独立の動きは支持しないことを明確に示すことで、自制を求めることです。

◆四、事前協議制度を利用して米国に今から迫れ

六〇年の日米安保条約改定により、日本から行われる戦闘作戦行動のための日本国内の施設・区域の使用には、事前協議が必要になりました（事前協議制度）。台湾有事の際は、これが適用される初めての機会となり得ます。但し米国側は日本の「拒否権」を認めておらず、肝心な時に無視され得ると考えられます。よって対米外交のカギは、**「台湾有事の際の直接出撃は事前協議の対象になる」「必ずしも事前協議で賛同することは限らない」**と現時点から米国に伝えることが肝要になってきます。政府に二枚舌を許さない世論喚起が必要です。

◆五、めざすべき外交

日本外交のモデルになり得るのは、米中対立の主戦場になっている東南アジアの外交です。ASEAN外相会議では既に南シナ海の問題をめぐり、二〇年九月段階で複数の会議で議論を積み上げ、対立が軍事的レベルに高まっている米中を念頭に「地域の平和と安定を脅かす争いに囚われたくない（どちらか一つという選択を迫られることを望んでいないDon't make us choose）」と自制を促すメッセージを発しています。また二一年九月に発足した米英豪の対中国軍事パートナーシップ（AUKUS）に対しても、しっかりと懸念を表明し、核拡散防止条約と国連海洋法条約の順守をしっかり求めるという対応をしており、軍事一辺倒の日本と大違いとなっているのです。**米中対立においてどちらにも組みしない外交姿勢**でASEANは一貫しているのです。

日本が「ミドルパワー」の国であることを自覚し、「Don't make us choose」と叫ぶ各国と連携して、米中対立の緩和を呼び掛けるべきでしょう。

（文責　非核いしかわ編集部）

◎五月二〇日に金沢市内で開催された「戦争をさせない石川の会」主催の講演会の講演要旨です。この講演動画は戦争をさせない石川の会ホームページにアップされています。

ドキュメンタリー映画
「声をあげる高校生たち」
試写会の感想より

◇未来に戦争や核兵器を持ち込ませないために、高校生たちが集める署名活動。最初はとても勇気がいっただろうと想像されるが、生き生きとした姿にとても希望を感じます。この石川、金沢の高校生たちも加わってほしいと強く願うものです。しかし本当に声を上げなくてはならないのは私たち大人です。ひたひたと戦争の足音が聞こえてきて、「戦争をしない国」だった日本が核兵器の傘の下で、「戦争できる国」へと変えられてきています。

◇私が五〇年前の二〇歳、大学生だったころ、東京の渋谷・代々木・原宿の予備校生や高校生たちが高校生平和ゼミナールなどを開くため、日々活動していたことを思い出しました。その頃からずっといろいろな状況を越えながら今も続いていることに感動しました。どうしても燃え上がる青年の声を抑えることはできないのです。今、金沢の地でこの映画をみることができて、とてもうれしいです。若者の声が未来へ届くことを祈ります。私も頑張ろうと思います。

◇未来を継ぐ若者たちの行動は数年前よりNHKで取り上げられている。被爆体験を絵画で表すこと、又若者行動など行われていることを知ることができ、心強いと感じています。自分たちの身近な若者たちへも発信することが今、七〇歳余、日本から平和を訴える行動の集大成だと思います。

◎核禁条約署名石川県連絡会が六月一八日、近江町いちば館四階集会室で開いた試写会での感想です。

監督　有原誠治　　ナレーション　斉藤とも子

映画「声をあげる高校生たち」上映＆トークイベント

日　時	**10月1日（日）14：00～16：00**
会　場	**金沢歌劇座 別館3階大練習室**
第１部	**「声をあげる高校生たち一核兵器禁止条約に署名・批准を」上映**
第２部	**斉藤とも子さんによるトークイベント**
参加費	**1,000円**
主　催	**核禁条約署名石川県連絡会**

非核石川の会リレーエッセー
海部公子さんのこと

佐藤　公男

加賀市吸坂町の色絵磁器画工、海部公子さんが昨年四月二一日、八二歳で亡くなった。一九三九年横浜市に生れ、硲伊之助に師事し吸坂町に九谷吸坂窯をつくる。硲の仕事を支える傍ら、かやぶきの古民家に住み、色絵磁器を制作した。

私も参加する硲伊之助美術館友の会の行事で、平塚らいてうの家、フェルメール展、永井愛主宰の二兎社能登公演などにご一緒した。

『五色の九谷』の復刊を通して古九谷を知り、時には叱咤激励されながら多くのことを学び、今ではそれらが生きる糧となった。

海部さんは、憲法九条をまもり暮らしに生かす活動にも情熱を注いだ。婦人民主クラブが発行する婦民新聞に「加賀のアトリエから」を長期連載し、憲法九条の精神を日々の生活、自身の手仕事の中で実践していた。

二〇〇五年三月「加賀・江沼九条の会」結成に呼びかけ人として賛同表明、九条の会石川ネットの井上ひさしさん、澤地久枝さんの講演会は、海部さんの

尽力で実現し、多くの県民の共感を得ることができた。

二〇一〇年に開設した平和工房「江沼の郷」看板は海部さんの揮毫です。海部さんの志を受けつぎ、憲法を守り、平和を発信しつづける決意を新たにしました。

「平和工房・江沼の郷」の看板は

海部公子さんが揮毫

海部さんが加賀九条の会に寄せた一文を紹介します。

九条の光　はかり知れず流された血と涙。戦争という殺し合いに汚れた人間の歴史。敵も味方もなくそれは不幸の極り。殺すも殺されるも拒否するならばあくまで対話による共存しかあるまい。さきの戦争への真摯な反省と平和共存への切実な希求から生まれた憲法九条。いまの世界はまだ波打つ暗夜。闇の岬に灯台が立ち、生存の拠点ここに在りと点滅する九条の光。この光を見失わず、強く明るくしてゆくために私たちの日々がある。

（「平和工房・江沼の郷」主宰）

詩人会議かなざわ「独標」より

再会

大川陽一

最強寒波襲来まぢかの明け方に
９３歳の母は宙を舞い
右大腿骨骨折で手術、入院
特養入所が決まりかけた矢先に
わが家の日常は　別の形で破られた

コロナ禍で面会中止のなか
タブレットでのリモート面会
「優しそうな人らやね…日本人か？」
ハイ、日本人の息子と嫁です
「あら～、今日は雪か？」
四角いタブレットを
テレビとまちがえているようで
背景が白いと雪に見え
暗いと夜かと思い
光差す　赤児に戻ったかのよう
それでも私たちに手を振る姿に
こちらも手を振り返す

母の野辺には
雷雨の後に　虹が架かっているのかとはいえ　これから
痛みや不安のなか
リハビリと格闘の日々が待っている

私は　ふたたび
母の手を　握ることができる日を
待っている

編集室より

◎そもそも「マイナンバー」というネーミングが気に入らない。勝手につけて「マイ」とは何事か。そもそも行政サービスを便利に受け取れるが取得は任意、と言っておきながら、今ではマイナポータルとして納税状況、年金などの保険料の納付状況、公金受取口座、健康診断結果、生活保護や児童扶養手当や雇用保険の支給など、二九分野の膨大な個人情報がヒモ付けられている。

納税者番号や旅券番号や免許証や健康保険証の番号がそれぞれ違って不便なのは庶民ではない。これまで通り必要に応じて本人確認すればよいだけの話。金子みすゞではないが、みんな違ってみんないいのだ。お上はやがて生まれたての赤ん坊にＩＣチップの類を埋め込もうと言い出すのではなかろうか。そんな悪夢は絶対に見たくない。（中）

非核・平和の掲示板

月	日	曜	時	行事予定	会場
7	29	土	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい／ピースデイ	金沢市末広町・卯辰山・平和の子ら像前
8	2	水	10:00	反核・平和おりづる市民のつどい／平和のパネル展（～16日）	金沢市鞍月1丁目・石川県庁19階展望ロビー
	3	木	18:00	公開講演会「731部隊からフクシマまで一御用学者と犠牲の系譜」（講師　西里扶甬子さん）	金沢市青草町・近江町いちば館4階研修室
	4	金	14:00	原水爆禁止世界大会in広島（～6日）	広島市内
	5	土	14:00	加賀耿二（谷口善太郎）朗読会（夜の部：18:30～）	能美市倉重町・能美市立辰口図書館ホール
	7	月	15:00	原水爆禁止世界大会in長崎（～9日）	長崎市内
	12	土		映画「はだしのゲンが見たヒロシマ」上映（～18日）	金沢市香林坊・シネモンド
	20	日	15:00	医療・福祉問題研究会総会記念講演／箕輪明子さん	金沢市西町・金沢大学サテライト・プラザ＆zoom
	26	土	11:00	「はだしのゲン」50周年記念・紙芝居・映画上映	金沢市暁町・おしゃべりCafeめてみみ
	27	日	14:00	いしかわ県民教育文化センター・夏の交流研究集会／紙芝居「たみちゃんのノーモア・ヒロシマ」	金沢市富樫・教育プラザ富樫 131研修室

＊会報「非核・いしかわ」サポート会員を募集中です。 年会費2，000円

戦争遺跡と平和の記念碑 ⑦

戦争被害 (1)

佐藤公男

「殉難おとめの像」

一九四五年八月七日愛知県豊川市の大空襲で、海軍工廠で働いていた一四歳から二五歳の未婚女性・女子挺身隊や学徒、学校報国隊や徴用工たち二四七七人が死亡、石川県から動員された五〇〇人のうち女子挺身隊五二人が犠牲となった。像は一九六二年金沢市末広町卯辰山相撲場近くに建立された。

「機雷犠牲者を刻む忠魂碑」

米軍は七尾湾に三か月で約四四〇個の機雷を投下し封鎖した。敗戦後の八月二八日夕方、木造の曳舟「第二能登丸」は七尾湾で機雷に触れ爆発・炎上、住民二八人が犠牲となった。忠魂碑には犠牲者一三人が「非軍属」の肩書で刻まれている。写真は七尾市鵜浦町御門主比古神社入口

「戦災者の碑」

一九四四年一二月一三日朝、「これはブイ(漂流物)だ」海軍兵士の言葉を信じ、金属回収に協力した門前町吉浦の住民一三人が、機雷爆発の犠牲となった。戦後、国に対し補償を求めたが「軍務ではなく資料もない」との理由で却下された。写真は一九八五年に補修を終えた「機雷戦災者の碑」(輪島市門前町吉浦)

「牛馬の碑」

輪島市町野町南時国家前

「軍馬記念碑」

金沢市小坂町野間神社境内

戦争の犠牲は人間だけではない。農耕馬は日清戦争時から軍需品輸送の主役として奨励され戦場に送られた。戦況悪化で餌がなくなり餓死や食料となった馬もいた。軍馬には交代がなく、死ぬまで酷使され、百万頭近くが犠牲になったと推測される。農村では牛糞で堆肥を作り子牛は貴重な収入源となった。犬も招集され「軍用犬」や防寒服に、野兎は防寒帽に、鳩は「軍用鳩」として戦場に送られた。動物園の猛獣は、「市民を猛獣の被害から守る」との命令で毒殺・銃殺で処分された。「無言の兵士」動物たちもまた戦争の犠牲者である。

(「平和工房 江沼の郷」主宰)

絵手紙コーナー

金沢医療生活協同組合
絵手紙班　家　正子

「会員エッセー＆コラム」(第3集)の出版協力募金のお願い文と出版記念祝賀会のご案内を本紙に同封しました。会員の皆様からのご支援、ご参加をお願い致します。